

大学図書館の携帯版サイトにおける機能の検討

増田 佳那子

大学図書館の Web サイトは利便性の向上を目指し改良を重ねているが、携帯電話向けのサイト（以下 携帯版サイト）は初期の携帯電話に合わせたまま、手つかずの状態になっている。総務省の調査によると、20 代の携帯電話利用率は 97.3%であり、インターネット利用率は 90.5%と高い数値になっている。そこで本研究は、携帯版サイトのサービスの向上を目指し、利用実態の調査を行った。

利用実態調査は筑波大学附属図書館の利用者である知識情報・図書館学類の学生 154 名を対象とした。その結果、携帯版サイトを知っていた人は 38.3%であり、知らなかった人は 61.7%であった。知っていた人のうち、利用したことのある人は 49.2%、利用したことのない人は 50.8%で、今後は利用すると答えた人は 40.0%、今後も利用しないと答えた人は 60.0%であった。今後も利用しない理由で一番多かった意見は、「パケット代がかかるため」(27.8%)であった。また、携帯版サイトを知らなかった人に対して、今後は利用するかを尋ねたところ、44.2%の人が利用すると答え、今後も利用しないと答えた人は 55.8%であった。利用しない理由を尋ねたところ、「PC 版サイトを見るから必要ない」(36.5%)という意見が多くみられた。また、現在利用している機能および今後利用したい機能を尋ねたところ、要望の多い順に、蔵書検索、貸出情報、予約情報、開館時間の表示となった。

さらに、携帯電話の利用行動についても合わせて調査したところ、携帯電話で最も利用されている機能はインターネットであり、ついでメールであることがわかった。1 日の利用時間はインターネットが平均 41.4 分、メールが平均 25.7 分であった。自宅での休養中や就寝直前など、時間が長くとれるときに使う機能はメールや通話、アプリ等ばらつきがあったのに対し、授業の休憩中や移動中という隙間時間では多くの人がインターネットまたはメールを利用していた。

以上の調査から、大学図書館の携帯版サイトの機能について考察すると、まず、携帯電話の利用行動から、携帯版サイトが利用される可能性があるのは比較的短い時間であるといえる。また、携帯版サイトの利用状況から需要のある機能は限定されていることもわかった。そのため、携帯版サイトに求められているのは、PC 版サイトのような多種多様な機能ではなく、短時間で手軽に利用できるコンパクトな機能であるといえる。しかしながら、現在の携帯版サイトは短時間で調べ物ができるようなインターフェースになっていないため、画面推移や表示方法等の問題が多く、パケット代も余分にかかってしまう。今後、インターフェースの見直しを行うことで、問題の解決が期待できると考える。また、PC 版サイトを優先して利用する人が多くいたことから、今後は PC 版サイトにはない、携帯電話の特性を活かした機能の開発が求められる。

(指導教員 宇陀則彦)